

野間秀樹 note

https://note.com/noma_h

JACTFL 先行配布 PDF 資料

https://www.jactfl.or.jp/?page_id=106 参考文献も



대한저성 인사이트 韓國の『大学知性』の『K-POP原論』書評

K-POP 원론

韓國の知性は『K-POP原論』をどう見るのか

韓國の『大学知性』が『K-POP原論』韓国語版の書評を!

● noma hideki 1か月前

♡ 5

한겨레 韓國のハンギョレ新聞『K-POP原論』韓国語版を熟く書評、日本語訳

『K-POP原論』書評

● noma hideki 2か月前

♡ 18

왜 "아파트"가? 그 작품의 비밀 ROSÉ 님なぜ"APT."가? その作品の秘密 言語と美学

ロゼ(ROSÉ, 로제)氏と Bruno Mars氏の"APT." (아파트), 一体何がかくも刺さるのか? 改訂版 #KPOP

● noma hideki 3か月前

♡ 22

한·گان 『흰』 『すべての、白いものたちの』 この題名の何が凄いのか?

한·گان 『흰』 (문학동네) 『すべての、白いものたちの』 (斎藤真理子訳: 河出書房新社) の題名の何が凄...

● noma hideki 3か月前

♡ 47

K-POP 원론 연립서가 출판사의 뜨거운 소개문 出版社の熱き紹介文 韓日対訳

韓國語版『K-POP 원론』(K-POP原論) 刊行! 紹介文の韓日対訳。2024年10月!

● noma hideki 4か月前

♡ 12

《話されたことは》を学ぶとは、ことばの音...を学ぶということだ 文字を勝手に音に實際してもだめだ 『韓国語をいかに学ぶか』から

発音の学び方! 《話されたことは》を学ぶとは、ことばの音を大切に学ぶということだ 勝手に音読などしても危...

● noma hideki 11か月前

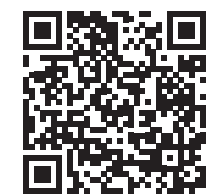
♡ 11

野間秀樹 作品集 触れること 在ること 在ったこと



チナセム tv 大韓民国大使館 YouTube

野間秀樹 ホームページ

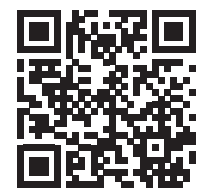


『ユアと韓国語 上級』 金珍娥・野間秀樹 くろしお出版 2025.3.25 刊

<https://www.youtube.com/watch?v=tDCKCeUkk-8>



『K-POP 原論』 Yahoo! ニュース ENCOUNTER 記事 2023.08.13-16



『韓国・朝鮮の心を読む』 野間秀樹・白永瑞共編 クオン; 독개비 2025.3.25 刊



『韓国・朝鮮の知を読む』 野間秀樹編 クオン; 위즈덤하우스

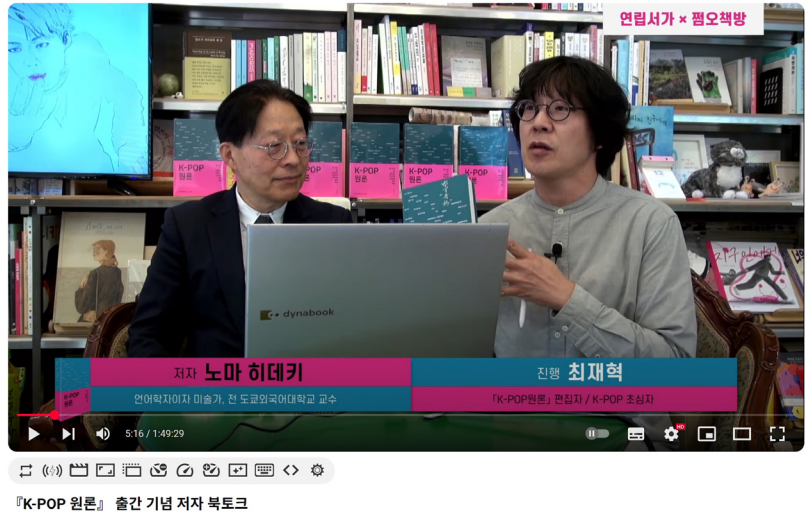
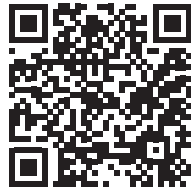
『韓国・朝鮮の美を読む』 野間秀樹・白永瑞共編 クオン; 연립서가



野間秀樹
X (twitter)



『K-POP 원론』 북토크
연립서가 YouTube



『한글의 탄생』
북트레일러
돌베개 YouTube



『K-POP 원론』
교보문고
詳細な紹介

『K-POP 원론』
「大学知性」
書評紹介日本語訳



『K-POP 원론』
「ハンギョレ新聞」
書評紹介日本語訳

『韓国語をいかに学ぶか』
「はじめに」と目次を読む 平凡社



『言語存在論』
「はじめに」と目次を読む
東京大学出版会

2025年3月9日(日) | JACTFL/SOLIFIC 主催 文部科学省 外務省 東京都教育委員会後援
第13回 シンポジウム 外国語教育の未来あすを拓く

生きるための言語

多元主義と複言語主義から言語教育＝言語学習を照らす ●参考補助資料

野間秀樹

JACTFL/SOLIFIC 主催 第13回 外国語教育の未来あすを拓く
～平和の心をはぐくむ複言語教育～

生きるための言語

多元主義と複言語主義から
言語教育＝言語学習を照らす

野間秀樹

2025年3月9日(日) 13:20-14:50 上智大学6号館

言語はいかに在るのか？ 本書はこうした問いから出発し、歩んできた。言語の存在様式論と表現様式論を区別し、ことばが意味となったり、意味とならなかつたりするありよう、文字が意味となったり、意味とならなかつたりするありようを見据えながら、位置づけ直すこと。言語の存在様式としての〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉が、一体いかに異なっており、それはいかなる関わりの中にあるのか、その謂わば位相的な鏡像関係を、言語場の人類史的な変容の過程も念頭に置きながら、描き出すこと。言語場論に立脚し、〈話されたことば〉の実現体たる談話と、〈書かれたことば〉の実現体たるテキストの構造を照らすこと。言語がいかに在るかを見据える中で、文字の誕生、即ち〈書かれたことば〉の誕生から同時代のIT革命に至る、メディアを支えとする言語場の猛烈な変容を直視し、そのことが言語の存在様式と表現様式へ、いかに関わっているかを考察すること。〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉を見るにあたって、訓民正音＝ハングルという知の導体の存在を位置づけること。〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉の相互浸透のありようを見ること。言語はいかに在るのかという問いから、言語内の表現のありようを照らす、〈文脈論〉〈引用論〉〈命名論〉〈言語化論〉〈言語的対象世界論〉といった、いくつかの問題群の手がかりを獲得すること。言語を語るにあたって、西欧の学問であった言語学を、日本語や朝鮮語＝韓国語の視座からも照らし返すこと。浅学非才の身であってみれば、こうした巨大なことがらの全てを一冊の書物で充分に描ききることは、もとより叶わない。

言語学はかつて、哲学の、美学の、文献学の、記号学の、情報工学の、心理学の、教育学の、社会学の、歴史学の、人類学の、あるいはまたその他の学問の一部として語られた。いかなる位置づけを試みるにせよ、その基礎には、〈言語はいかに在るのか〉という問いは、問われねばならない。本書の願いは〈言語はいかに在るのか〉という問いが何よりもまず、拓かれることにある。形而上学的な思弁の世界を抜け出て、記号論的な平面を超え、関係論的な空(むな)しさに溺れず、生きた現実の存在論的な視座から言語を照らす——このことを貫くならば、言語をめぐる豊かな問いが、更にあちらこちらに湧出(ゆうしゅつ)するであろう。そうした問いの群れの蜂起が叶うとき、その向こうに、言語の幻想の形而上学は崩落する。問いは拓き得たであろうか。

—— 野間秀樹(2018)『言語存在論』(東京大学出版会)「あとがき」から

しかしいま、やっとわかる 때가来た。世界の半分は言語でできている。これは信じていいことだ。世界の半分が言語でできている——もちろんこれは譬えに過ぎない。けれども本書を共にしていただければ、この譬えの巨大な重圧を感じていただけるであろう。そうした世界に生きる私たちは、言語をめぐる、今日、次のような切実な問いを発せずには、いられない：

私たちは言語をめぐるいかに生きるのか

世界がウイルスという名の見えない何ものかに、恐れ戦いたとき、宇宙服のような防護服に象徴されるように、人と人が直接触れ合うことは、禁忌となった。そして人と人の繋がりが、何とインターネット上に求められてゆく。あるいはPCの、あるいは携帯デバイスの、華奢なディスプレイ越しでなければ、人と人が出会えなくなってしまった。互いの表情を見せてくれるディスプレイは、あたかも私たちのもどかしさを増幅させる装置のごとくである。人が人を求め、共にする、最後の砦は何であったろう。病棟に隔離され、人が人を抱擁さえできなかつたとき、最後に残ったのは何であったろう。言語である。そこにはもうほとんどことばしかなかった。私たちはそのことを、嫌と言うほど、思い知らされたのである。言語こそは、私たちが共にあることの、最後の砦であった。

でもウイルス年以前も、実はそうだった。始まりはいつも言語であったし、最後の砦も言語であった。(中略)

世界を生きる私たちの息苦しさの底には、往々にして言語についての息苦しさが蠢いている。

日本語を〈母語〉とする人々にとっても、息苦しさは母語たる日本語にだけ感じられるのではない。日常のあちこちに聞こえる、「英語を学べ」などという進軍喇叭もまた、言語をめぐる私たちの苛立ちを駆り立てる。この〈母語〉という概念をめぐる、大切な問題群が蹲っている。(中略)

今日、言語は私たちにどういかなる姿をとって、立ち現れているのか？ 私たちを繋いでくれる最後の砦であったはずの言語は、真に私たちのものなのか？ 反対に、いつしか私たちはあまりにも言語に苛まれているのではないのか？ これは単なる意思疎通の不十分さなどといった、生易しい事態ではない。コミュニケーションなどという、実験室から取り出してきたような単語で、語りきれぬ事態ではない。ことばを学ぶということにあつてもそうだ。

「国語」教育？ コミュニケーションのための「外国語」教育？ これらもまた、あまりにも空疎な号砲である。コミュニケーションになど辿り着きもしない、「外国語」への劣等感の巨大生産装置たる、公教育の累々たる屍を見よ。何が間違っているのではないのか？ 「外国語」教育の、目標も、方法も、あるいは出発点さえ間違っているのではないのか？

日常のありとあらゆる局面で、言語がまるで私たちの脳を締め上げ、私たちの感性をすり潰すかのごとくである。原発が崩落し、ウイルスが蔓延する、そうした危機に乗じて、〈国家の言語〉が、〈差別の言語〉が、〈抑圧の言語〉が密やかに、時には公々然と襲いかかってくる。しばしば〈戦争する言語〉さえも飛び交っている、これは、錯覚なのか？ 杞憂なのか？

深いところから考えるとき、間違いなく言えることは、私たちの生のうちを、人類の歴史にかつてなかったほどの、圧倒的な量の言語が、恐るべき速度をもって蠢いているということである。ことばが私たちの生のあらゆるところに溢れている——言語のパンデミック。(中略)

私たちにどうしても言語を生きる〈構え〉が必要である。言語を発すること、言語を学ぶこと、言語を教えること、言語を問うこと、言語にとってのそうしたあらゆる局面に〈構え〉が必要である。何よりも、言語そのものと、言語場をめぐる、いったい何が違って、何が変わっていないのか、その見極めは不可欠である。(中略)

そう、言語は何よりも私たちの生きることの根幹を動かしている。言語を生きると言ってもよい。ことばによって疎外され、ことばによって抑圧されるなど、人の生きる姿ではあるまい。繰り返すが、世界の半分は言語でできている。言語のパンデミックの時代を迎えているなら、何よりもその言語とは、生きるための言語でありたい。書名に焼き付けられているのは、本書の希いである。

本書は動態としての言語の最も深き底を緩やかに流れる海流を見据え、言語を生きることを、考える。言語をめぐるあ

りようを見据える〈構え〉がほしい。〈構えを作る〉であきたらなければ、〈武装する〉と言ってもよい。無論これは、貨幣と交換が可能な、銃弾や砲弾などといったものによる武装ではない。徹頭徹尾、〈知の武装〉であり、〈心の武装〉である。

私たちが生きるための言語を問う。その問いは、言語を単に記号論的な平面上で眺めたり、単なるコミュニケーションの道具などに貶める^{おとし}、既存の言語学や言語思想とは、大きく異なった問いとして問われることになるだろう。一言で言うと、〈言語はいかに在るか〉という言語存在論的な問いとして、問われることになる。問いを、共にしてくださらんことを。言語を生きるために。

——野間秀樹(2021)『言語 この希望に満ちたもの』(北海道大学出版会)「はじめに」から

ハングルとは一五世紀に朝鮮半島に生まれた文字体系の名称である。〈訓民正音^{くんみんせいおん}〉あるいは〈正音^{せいおん}〉とも呼ばれる。本書は、ハングルという文字がいかなるもので、どのような仕組みになっており、またハングルが歴史の中にいかに生まれたか、そしてハングルの誕生が〈書くこと〉はもちろん、さらには〈知〉のありようの、いかに深いところで起こったできごとであるかを見ながら、〈ことば〉や〈文字〉をめぐる問いを考えようとするものである。

ハングルという文字を知ることは、東アジアに生まれた一つのユニークな文字体系を知ることに留まらない。音^{おん}によって成り立っている〈ことば〉というものが、いったい如何にして〈文字〉というものに造り上げられるのか、考えてみれば、これは不思議なことである。

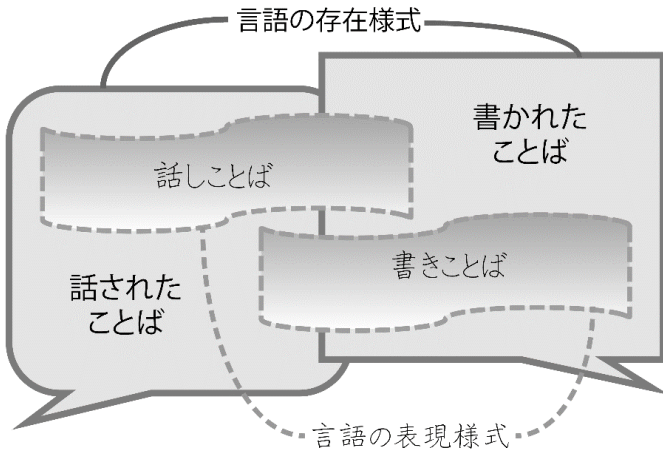
ハングルが生まれ来るさまを見ることは、実にその秘密へと分け入ることになる。空気の揺らぎを言語音として私たちが聴く、そうした営みの中で成り立つ〈話されたことば〉は、そもそもどうして〈文字という視覚的な仕掛け〉を通じた〈書かれたことば〉になりうるのだろうか。ハングルの仕組みを見据える中で、私たちは〈音が文字となる〉驚くべきシステムを目の当たりにすることになる。ハングルを見る中で、一つの文字体系を知るに留まらず、ことばや、音と文字をめぐる普遍的なありようを見ることができよう。

ハングルという文字を、〈言語〉とは、〈音〉とは、〈文字〉とはといった、広い言語学的な視野から見る、そして広く〈知〉のありようの中で見る、これが本書の視座である。

——野間秀樹(2010:9-10)『ハングルの誕生』(平凡社)「はじめに」から

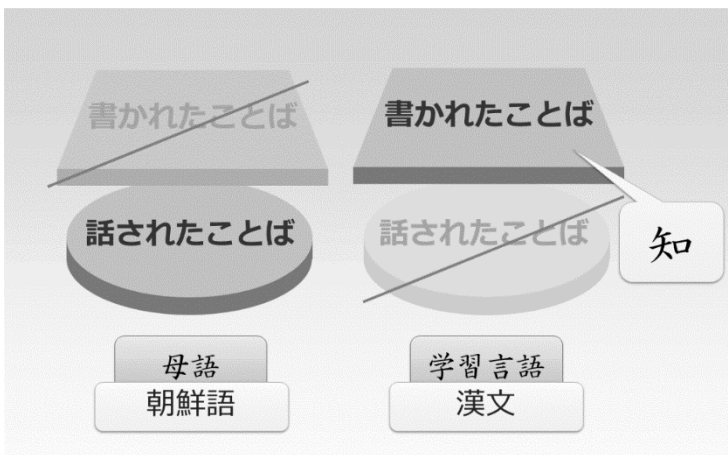
このかん、一〇年以上が経った。ハングルという文字体系をめぐる位置づけなど、平凡社新書版で述べたことからの根幹は、今なお揺るがない。ただし、述べるべきことに変わりはなくとも、述べ方は進歩してもよいはずである。

一方で、ハングルをめぐる今日のさまざまなありようも、劇的と言ってもよいほど、大きく動いている。「コンピュータの時代となって、さらに豊かな可能性を誇るものとなった」とは平凡社新書版のことばであるが、その通りに、可能性は大いに切り拓かれた。様々な言語圏において、インターネット上ではハングルという文字を眼にすることが、珍しいことではなくなった。映像の中だけでなく、その下の書き込みにもハングルはあちらこちらに姿を現している。スマートフォンに象徴される韓国のIT産業の発達、K-POPを始めとする音楽の国際的な受容、映画、ドラマ、あるいは日本語圏にあってはK文学への共感など、韓国文化の隆盛がハングルという文字を世界に知らしめたと言える。大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の南北会談といった政治的な出来事も記憶に新しい。日本語圏では大学や高校などで毎年数万の人々が、韓国語＝朝鮮語を新たに学び始めていると思われる。大きなネット書店で「韓国語入門」と検索すると、一〇〇〇件以上が、「ハングル入門」でも二〇〇件以上がヒットする。駅名の表示などにもハングルが用いられていて、日本ではハングルを見たことがない人を探す方が、難しそうである。平凡社新書版が刊行される以前は、韓国や共和国に関心のある人でさえ、言語を学んでいなければ、「ハングルってのは仮名みたいなもんだらう」ほどの受け取り方が、ごく普通であつたし、知識人や大学人などの間でもハングルに



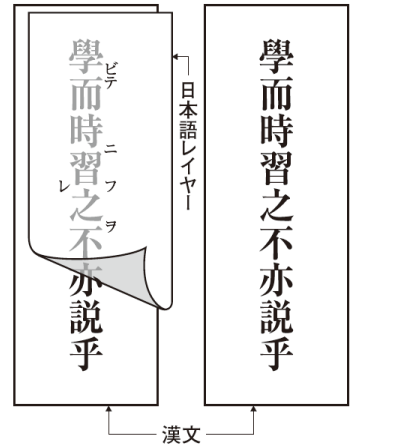
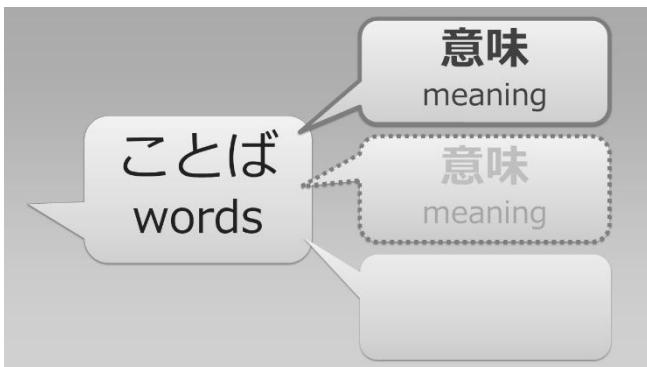
●言語の存在様式と表現様式を区別する
——野間秀樹(2018:48)『言語存在論』

●15世紀朝鮮語圏における二重言語状態



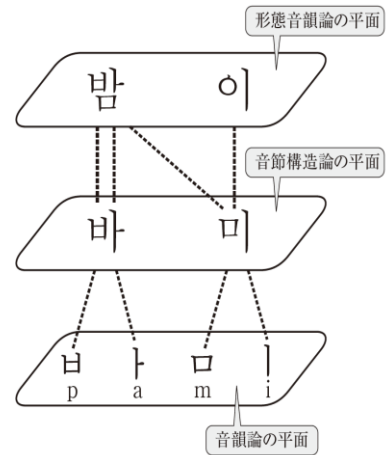
——野間秀樹(2018:58)『言語存在論』

●ことばは〈受話者〉によって意味となったり、意味となる、ならないの曖昧な境界にあたり、意味とならなかったりする——野間秀樹(2018)『言語存在論』



漢文に日本語という層レイヤーを重ねる

●漢文に日本語という層レイヤーを重ねる
——野間秀樹(2021:93)『新版 ハングルの誕生』

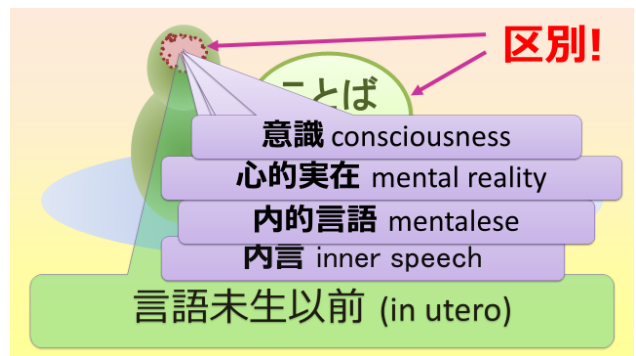
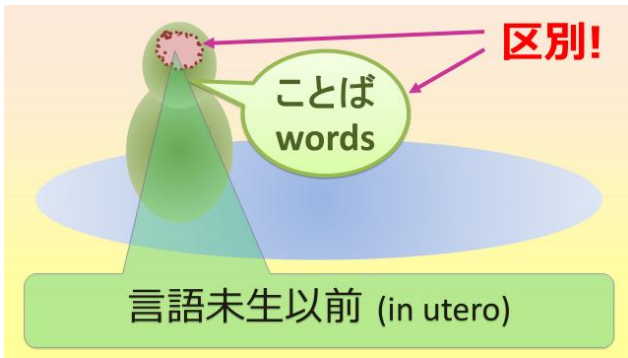


●ハングルの3層の表記法
——野間秀樹(2021:191)『新版 ハングルの誕生』

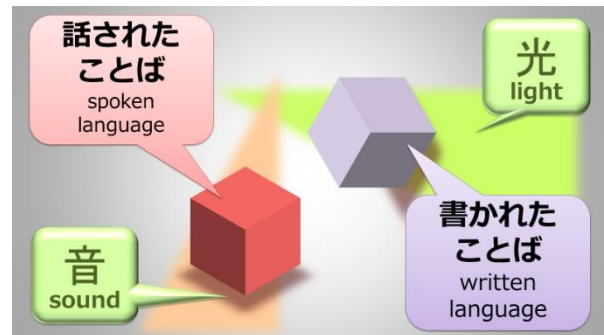
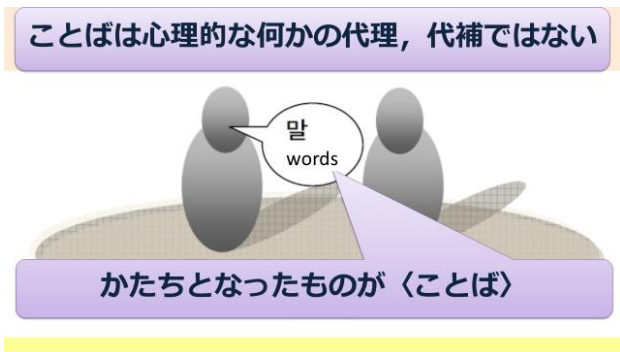
●言語未生以前げんごみしょういぜん と、ことばとして対象化されたものを区別する

●言語未生以前のもの様々に呼ばれてきた

——野間秀樹(2018:4)『言語存在論』



●ことばは心理的な何ものかの代理や代補ではない



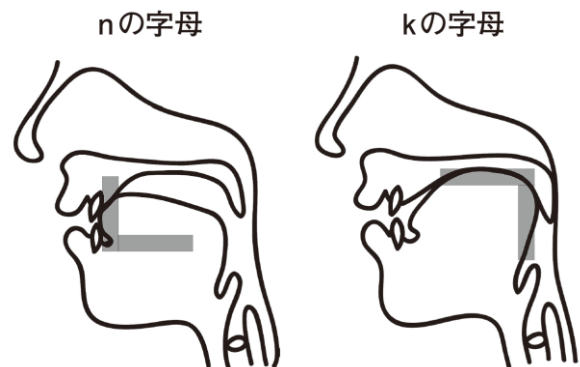
●〈話されたことば〉は音の世界に言語音で実現し、
〈書かれたことば〉は光の世界に文字で実現する

●漢字の〈形音義〉トライアングル構造

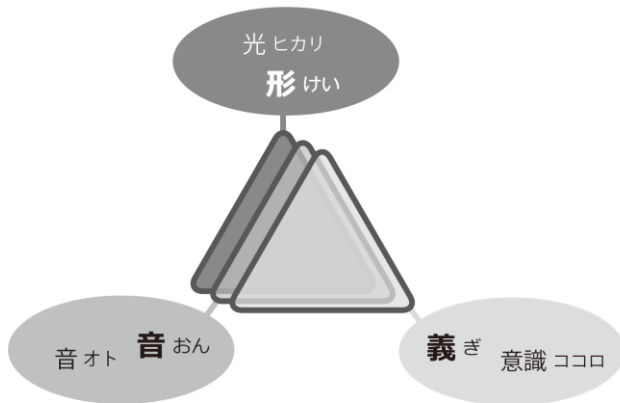
●子音字母は発音器官の形を象った

——野間秀樹(2018:144)『言語存在論』

——野間秀樹(2010:121)『ハングルの誕生』



●文字の原理としての〈形音義〉トライアングル構造
 ——野間秀樹(2021:86)『新版 ハングルの誕生』

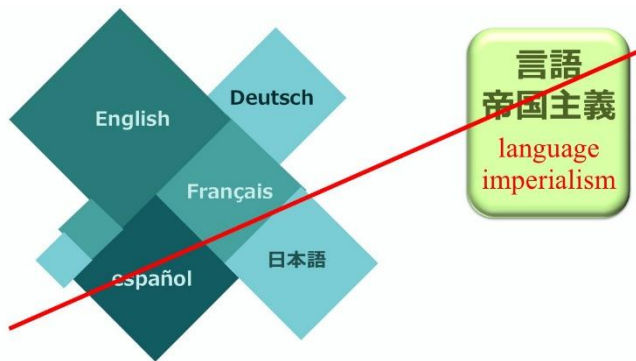


〈形音義トライアングル・システム〉における形はヒカリの世界の、音はオトの世界の、そして義は意識、ココロの世界の出来事である。これらトリアードが統合されて働く機制こそ、文字の本質をなす

●多元主義 polycentrism



●言語による世界分割は多元主義ではない：言語帝国主義 ●多元主義の別な表現/別の観点からの多元主義



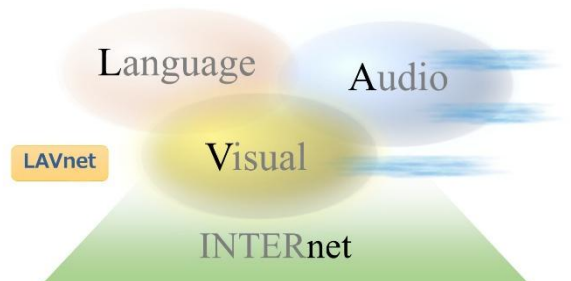
●K-POP についての大きい誤解



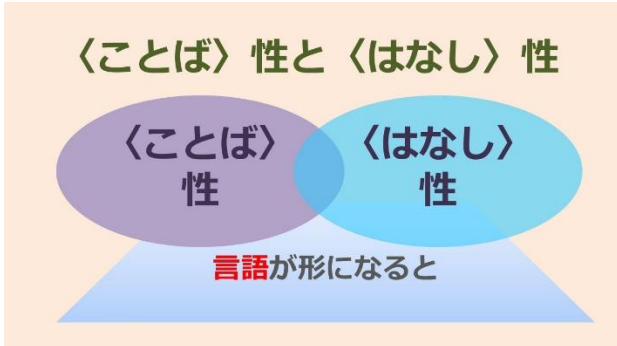
存在様式, 表現様式, 私的所有の様式の点で
 これまで地球上に存在しなかったアートである

●言語, 音, 光がネット上を高速で動く LAVnet
 노마 히데키(2024)

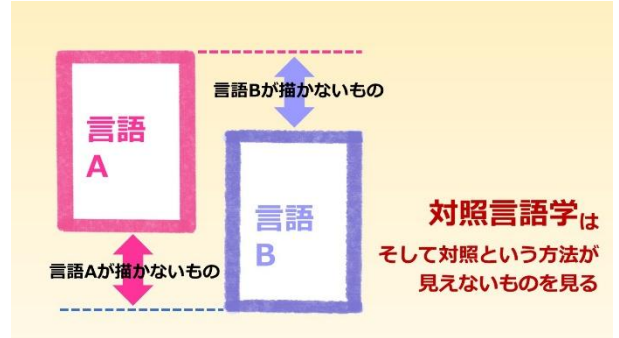
*野間秀樹(2018)などでは TAVnet



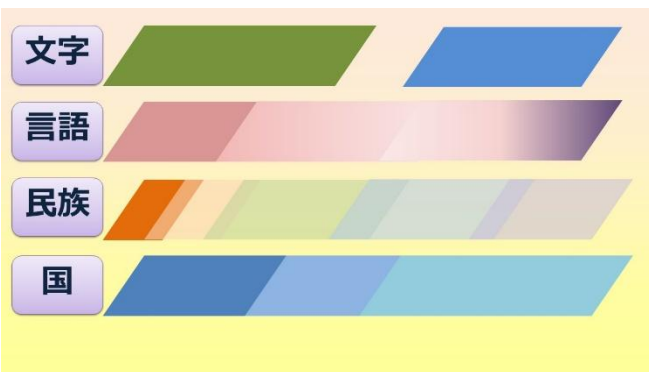
- 言語が形として実現すると、その言語場には〈ことば〉性と〈はなし〉性が不可避的に立ち現れる
——野間秀樹(2022:290-299)『K-POP 原論』



- 対照言語学/対照という方法は見えないものが見える
——野間秀樹(2021:215-239)
『言語 この希望に満ちたもの』5-1



- 国家≠民族≠言語≠文字が初期値(デフォルト)である原理的に一致などしない



- 言語を何かの〈道具〉に貶める言語道具観
言語は単なる「コミュニケーションの道具」などではない
私たちの存在の深いところに不可欠に関わっている

言語は単なる道具ではない

どうして解る？

言語は身体という存在が不可欠で切り離せない

- 言語を学ぶことは単なる対他的な観察ではない
自らのしばしば根底的な変革



- 言語を一方的に頂戴する、従属的な学び
これが今日の言語教育＝言語学習の支配的思想
複言語主義的、
対照言語学的学びは母語を生かし、根拠地にできる

言語を
ありがたく
頂戴する!?

言語教育の支配的思想

生きるための言語

多元主義と複言語主義から言語教育＝言語学習を照らす

参考文献 2025年3月9日 JACTFL/SOLIFIC 主催

第13回 外国語教育の未来あすを拓く

野間 秀樹 (のま・ひでき)

●エスペラントについて

安達信明(2018)『ニューエクスプレス+ エスペラント語』, 東京:白水社

小林司・萩原洋子(2006)『4時間で覚える地球語エスペラント 改訂版』, 東京:白水社

柴田巖・後藤斉編, 峰芳隆監修(2013)『日本エスペラント運動人名辞典』, 東京:ひつじ書房 ★驚くべき発見に満ちた日本のエスペラント史を描き出す記念碑的な辞典

田中克彦(2007)『異端の言語』, 東京:岩波書店

日本エスペラント学会 エスペラント日本語辞典編集委員会(2006)『エスペラント日本語辞典』, 編集主幹小西岳. 東京:日本エスペラント学会 (JEI) ★他言語の辞書と比べても遜色のないエスペラント辞書の金字塔

リンズ, ウルリッヒ(1975)『危険な言語—迫害のなかのエスペラント』, 栗栖継訳. 東京:岩波書店 ★なぜエスペラントは弾圧されたのか? 真に言語だったから. 根源的な連帯の言語だったから. エスペラントからの日本語訳

日本エスペラント協会 <https://www.jei.or.jp/>

日本エスペラント協会 エスペラント図書カタログ <https://www.jei.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/01/JEI-librokatalogo-2021ret.pdf>

●諸言語について

出雲路修(2003)『古文表現法講義』, 東京:岩波書店 ★古文で物語を書くという驚くべき教育実践. 漢文にもこんな実践があるといいのだが 大木力(2023)『英語の発音と綴りなぜ walk がウォークで、work がワークなのか』, 東京:中央公論新社 ★英語の〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉を鮮明に区別し、それらの対応関係をこれでもかとばかりに解析する. 一般言語学的な観点からも楽しい

湖南文文山・葛飾戴斗挿画, 落合清彦校訂(1982)『絵本通俗三国志 第一巻・第十二巻』, 東京:第三文明社 ★李學仁・王欣太の漫画『蒼天航路』や横山光輝などまで、『三国志演義』は数々あれど、言語学習、非母語学習の観点から、古文そして少しは漢文の学びに、とりわけ若き生徒、学生のみなさんにこれは推挙しておきたい. 本文の難解語には割注で説明があって、江戸期古文の文体に大いに酔いしれることができる. ちなみに岩波文庫など途中から文体が変わってしまっていて驚かされる. この12巻本はA5判ハードカバーで重いので、持ち歩きにくいから良いのだが、持って歩ける岩波文庫版などは、次の巻を持って山手線のような環状線に乗ってはいけない. 若さ故の過ちから体験上警告させていただくなら、降りる駅をやり過ごし、必ず1周してしまい、さらにもう1周しようになる

橋本文夫(1969)『初級ドイツ語講座(合本)』, 東京:郁文堂 ★全3巻を1冊に合本で400ページ近いのだが、大きな活字の全ての本文に、単語ごとに小さく発音記号と仮名発音、意味を並行的に記すという造りで最後まで無理なく学習. 学習書にあって親切は良いことだ. ところどころに散らばる伝統的なミニ文法論談義も面白い. 詩なども. Peter Rosegger の“Ein Freund ging nach Amerika”には若さ故か、不覚にも落涙してしまったのではないか. 懇切丁寧な昔の学習書の1冊

前田陽一・丸山龍雄(1957)『新フランス語入門』, 東京:岩波書店 ★文字と発音から、何と発音記号付きのデカルトやラ・フォンテーヌ, モリエール, ヴォルテール等々の一節までという驚愕の編集. もうこんな学習書は造れないだろう. あちらこちらに歌の楽譜までも. 懇切丁寧な昔の学習書の1冊

●日本語について

奥田靖雄(2011・2022)『奥田靖雄著作集』, 東京:むぎ書房 ★多くの文学作品から用例を収集する、コーパス言語学以前の地道な言語事実主義的方法論とその思弁力で日本語文法の広い部分を制覇した奥田靖雄の著作集

小田勝(2015)『実例詳解 古典文法総覧』, 大阪:和泉書院 ★言語事実主義的な観点が光る. 現代語との対照言語学的な視座が生きる包括的な古典文法. 古典文法はこんなふうに語ってほしかった

小田勝(2020)『古代日本語文法』, 東京:筑摩書房

金珍娥(2016)「人は発話をいかに始めるか——日本語と韓国語の談話に照らして」, 『朝鮮学報』, 第238輯, 天理:朝鮮学会 ★対照言語学研究から日本語が見える

金珍娥(2019a)「日本語と韓国語の談話における〈述語文〉の様相——〈話されたことば〉の文末を照らす」, 『朝鮮学報』, 第249・250輯合併号, 天理:朝鮮学会

金珍娥(2019b)「日本語と韓国語の談話に現れる〈対聞き手敬語表現〉を照らす」, 『朝鮮学報』, 第251輯, 天理:朝鮮学会 ★厳密な条件統制下の実際の言語使用の調査を基礎に、「目下が目上に敬語を」という、同時代の日本語と韓国語の敬語表現のパラダイムの根底的な崩壊を描き出す. 日本語学と韓国語学を震撼させる驚愕の論考. 人々は金珍娥対照言語学の深さに未だ気づいていない

金水敏(2006)『日本語存在表現の歴史』, 東京:ひつじ書房 ★近年の日本語研究の白眉の1つ

小松英雄(2006)『日本書記史原論 補訂版』, 東京:笠間書院 ★書記史という発想が嬉しい

鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』, 東京:むぎ書房

鈴木康之(1975)『古典語文法要説』, 東京:池上書店 ★現代語との対照言語学的な観点からの古典文法記述, その隠れた一品

三上章(1960)『象は鼻が長い』, 東京:くろしお出版 ★助詞「は」がピリオドを超えて働くいわゆる「ピリオド超え」など, 面白いアイデアに満ちた三上章の論考. ただしピリオドは超えられたのではない. 後で打たれたのだ

三上章(1960-1972)『三上章著作集』, 東京:くろしお出版

●韓国語＝朝鮮語の全体像

李基文(1998)“新訂版 國語史概説”, 서울:太學社

李基文[이기문](1975)『韓国語の歴史』, 藤本幸夫訳, 東京:大修館書店

梅田博之(1989)「朝鮮語」,『言語学大辞典 第2巻 世界言語編(中)』,東京:三省堂
 野間秀樹編著(2007)『韓国語教育論講座 第1巻』,東京:くろしお出版
https://www.9640.jp/book_view/?374
 野間秀樹編著(2008)『韓国語教育論講座 第4巻』,東京:くろしお出版
https://www.9640.jp/book_view/?410
 野間秀樹編著(2012)『韓国語教育論講座 第2巻』,東京:くろしお出版
https://www.9640.jp/book_view/?566
 野間秀樹編著(2018)『韓国語教育論講座 第3巻』,東京:くろしお出版
https://www.9640.jp/book_view/?754



★韓国語=朝鮮語学, 韓国語教育と, 文学などその周辺のことなら, まず大抵のことはこの4冊の講座で重要な手掛かりを得ることができる。
 日本と韓国の, そして朝鮮大学の研究者たちまで70名以上が共にする

Холодович, А. А. (1954) *Очерк грамматики корейского языка*, Москва: Издательство литературы на иностранных языках
 ★50年代前半にしてこれだけの朝鮮語文法論が。記念碑的作品。入門書ではない。ホロドヴィッチは日本語学も

●ハンゲルについて

姜信沆[강신항](2003a)《수정 증보 훈민정음연구》, 성균관대학교 출판부
 김주원[金周源](2013)《훈민정음: 사진과 기록으로 읽는 한글의 역사》, 서울: 민음사
 노마 히데키[野間秀樹](2011)“한글의 탄생 —— 〈문자〉 라는 기적”, 김진아·김기연·박수진 옮김, 파주: 돌베개
 ★野間秀樹(2010)의韓国語版
 노마 히데키[野間秀樹](2015b) ‘훈민정음=한글의 탄생을 언어의 원리론에서 보다’, “제 1 회 세계한글작가대회 발표자료집”, 서울: 국제펜클럽 한국본부
 노마 히데키[野間秀樹](2016b) ‘한글의 탄생과 불교사상의 언어——언어존재론적 시좌(視座)에서’, “언어사실과 관점” 제39집, 서울: 연세대학교 언어정보연구원
 최경봉·시정근·박영준[崔鳳凰·柴政坤·朴泳濬] (2008)《한글에 대해 알아야 할 모든 것》, 서울: 책과함께
 노마 히데키[野間秀樹](2022) “한글의 탄생 개정증보판——인간에게 문자란 무엇인가”, 박수진·김진아·김기연 옮김, 파주: 돌베개 ★野間秀樹(2021)의韓国語版

石和田秀幸(2001)「日韓(朝)友好の先駆者雄誉(おうよ)上人——館山大巖院のハンゲル石塔」千葉県日本韓国・朝鮮関係史研究会編著『千葉のなかの朝鮮』東京:明石書店

姜信沆[강신항](1993)『ハンゲルの成立と歴史』,東京:大修館書店 ★不可欠の基本的な文献

趙義成(2023)『訓民正音』,東京:平凡社

野間秀樹(2010)『ハンゲルの誕生——音から文字を創る』,東京:平凡社 ★基本的な文献. 一般言語学・言語論からハンゲルを照らした平凡社新書版. この改版が野間秀樹(2021)

野間秀樹(2014a)『日本語とハンゲル』,東京:文藝春秋 ★日本語をハンゲルや韓国語から解りやすく照らす. 日韓対照言語学の醍醐味. 電子書籍あり

野間秀樹(2014d)「知とハンゲルへの序章」,野間秀樹編(2014)所収

野間秀樹(2021a)『新版 ハンゲルの誕生——人間にとって文字とは何か』,東京:平凡社 ★★2010年平凡社新書版を100頁近く増補. 平凡社ライブラリー版. 基本的な文献. 一般言語学・言語論からハンゲルを照らす. ハンゲルと漢字関連の文献は本書の文献案内でほとんど網羅. 年表も. 電子書籍あり

野間秀樹(2023)『図解でわかる ハンゲルと韓国語——文字の歴史としくみから学ぶ』,東京:平凡社 ★〈ハンゲルの誕生イラストレイテッド+韓国語とハンゲルへの軽やかなる入門〉という,未だなかった〈語学書+人文書〉の愉楽. 中高生から人生の達人まで

한글 타이포그래피 (ハンゲルタイポグラフィ) <http://typohan.tumblr.com/>

●文字論・文字学

노마 히데키[野間秀樹](2016a) ‘언어를 살아가기 위하여 —— 언어존재론이 묻는, 〈쓰는다는 것〉’, “제 2 회 세계한글작가대회 발표자료집”, 서울: 국제펜클럽 한국본부

류현국[劉賢國](2015) “한글 활자의 탄생(1820-1945)”, 서울: 흥시 ★ハンゲル活字の歴史を実証で迎る快著

류현국[劉賢國](2017) “한글 활자의 은하계: 1945-2010”, 서울: 윤디자인그룹 영똥상상

송기중·이현희·정재영·장윤희·한재영·황문환 [宋基中·李賢熙·鄭在永·張允熙·韓在永·黃文煥] (2003) 《한국의 문자와 문자연구》, 서울: 집문당

伊藤悠(2013-2017)『シュトヘル 1-14』,東京:小学館 ★西夏文字と文字がいわば主人公とも言える漫画

岸俊男編(1988)『日本の古代第14巻 ことばと文字』,東京:中央公論社

白川静 (1996:1389)『字通』,東京:平凡社

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編(2005;2007)『図説 アジア文字入門』,東京:河出書房新社

西田龍雄(2002)『アジア古代文字の解説』,東京:中央公論新社

西田龍雄編(1981;1986)『講座言語 第5巻 世界の文字』,大修館書店

マクルーハン, M(1986)『グーテンベルクの銀河系——活字人間の形成』,森常治訳,東京:みすず書房

町田和彦編(2011)『世界の文字を楽しむ小事典』,東京:大修館書店

●言語論・言語学

김진아[金珍娥](2019) “담화론과 문법론”, 서울: 연락 ★金珍娥(2013)의韓国語版

노마 히데키[野間秀樹](2002) “한국어 어휘와 문법의 상관구조”, 서울: 태학사

노마 히데키[野間秀樹](2015a) ‘인문언어학을 위하여 —— 언어존재론이 묻는, 살아가기 위한 언어’, “연세대학교 문과대학 창립

- 100周年 기념 국제 학술대회 발표 자료집”, 서울: 연세대학교 문과대학
- 市河三喜・高津春繁主幹(1952,1955)『世界言語概説 上下』, 東京: 研究社出版
- イ・ヨンスク(1996)『国語という思想——近代日本の言語意識』, 東京: 岩波書店
- ヴィゴツキー(2001)『思考と言語 新訳版』, 柴田義松訳, 東京: 新読書社
- ウイトゲンシュタイン(1975a)『ウイトゲンシュタイン全集 1 論理哲学論考』, 山本信・大森荘蔵編, 奥雅博訳, 東京: 大修館書店
- 牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編(1967;1981)『中国文化叢書 1 言語』, 東京: 大修館書店
- エヴェレット, ダニエル・L.(2012)『ピダハン——「言語本能」を超える文化と世界観』, 東京: みすず書房
- 奥田靖雄(1985)『ことばの研究・序説』, 東京: むぎ書房
- オング, W-J. (1991)『声の文化と文字の文化』, 東京: 藤原書店
- 真田信治・庄司博史編(2005)『事典 日本の多言語社会』, 東京: 岩波書店
- 風間喜代三(1978)『言語学の誕生——比較言語学小史』, 東京: 岩波書店 ★比較言語学(対照言語学と異なり, 歴史言語学)では簡便にしてとても面白い
- 亀井孝(1971)『亀井孝論文集——日本語学のために』, 東京: 吉川弘文館
- 亀井孝・大藤時彦・山田俊男編(1963;2007)『日本語の歴史 1-7』, 東京: 平凡社
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編著(1988-1996)『言語学大辞典 第1巻-第6巻』, 東京: 三省堂 ★世界最大級の言語学辞典. 日本の記述言語学の金字塔
- 柄谷行人(1986,2001)『探求 I』, 東京: 講談社
- 柄谷行人(1994;2004)『探求 II』, 東京: 講談社
- 金珍娥(2013)『談話論と文法論——日本語と韓国語を照らす』, 東京: くろしお出版 ★実際の〈話されたことば〉を談話論+文法論という観点から描き出す, 驚きに満ちた言語学
- 金珍娥(2016)「人は発話をいかに始めるか——日本語と韓国語の談話に照らして」, 『朝鮮学報』, 第238輯, 天理: 朝鮮学会
- 金珍娥(2019a)「日本語と韓国語の談話における〈述語文〉の様相——〈話されたことば〉の文末を照らす」, 『朝鮮学報』, 第249・250輯合併号, 天理: 朝鮮学会
- 金周源(2018)「絶滅危機に瀕するアルタイ言語の記録」, 高木丈也訳, 野間秀樹編著(2018)所収
- 金文京(2010)『漢文と東アジア』, 東京: 岩波書店
- クリステヴァ, ジュリア(1983)『ことば, この未知なるもの——記号論への招待』, 谷口勇・枝川昌雄訳, 東京: 国文社
- 桑野隆(1979)『ソ連言語理論小史』, 東京: 三一書房
- 現代思想編集部編(2000)『ろう文化』, 東京: 青土社
- 河野六郎(1979-1980)『河野六郎著作集』, 東京: 平凡社 ★河野六郎文字論は文字論の白眉
- 高史明(1973)『彼方に光を求めて』, 東京: 筑摩書房 ★ことばが意味とくならない言語場のリアル
- 酒井直樹・西谷修(2004)『増補「世界史」の解体——翻訳・主体・歴史』, 東京: 以文社
- 真田信治, ダニエル・ロング編(1997)『社会言語学図集 Japanese Sociolinguistics Illustrated』, 東京: 秋山書店
- サピア, エドワード(1957)『言語——ことばの研究』, 泉井久之助訳, 東京: 紀伊國屋書店
- サピア, エドワード(1998)『言語』, 安藤貞雄訳, 東京: 岩波書店 ★言語学書では数少ない名文か
- シャルティエ, ロジェ&グリエルモ・カヴァッツロ編(2000)『読むことの歴史——ヨーロッパ読書史』, 田村毅他訳, 東京: 大修館書店
- ソシュール, フェルディナン・ド(1940)『言語学原論』小林英夫訳, 東京: 岩波書店. ソシュール(1928)岡書院の改訳新版
- ソシュール, フェルディナン・ド(1940;1972)『一般言語学講義』小林英夫訳, 東京: 岩波書店. ★ソシュール(1940)の改訂. 20世紀言語学のみならず, 20世紀人文思想に絶大なる影響を与え, 記号論バブルまで将来することになる書物の日本語訳. 面白い知見に満ちるが, そこで抜け落ちるものも. とりわけ〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉の位置づけ, シニフィアンとシニフィエ論などは根底的な問題. 野間秀樹(2018)『言語存在論』参照. なお, 小林英夫の日本語訳が世界最初の翻訳書
- ソシュール, フェルディナン・ド(2003)『フェルディナン・ド・ソシュール 一般言語学第三回講義 エミール・コンスタンタンによる講義記録』, 相原奈津江・秋津伶訳, 京都: エディット・パルク
- ソシュール, フェルディナン・ド(2007)『ソシュール一般言語学——コンスタンタンのノート』, 影浦峯・田中久美子訳, 東京: 東京大学出版会
- 田中克彦(1981)『ことばと国家』, 東京: 岩波書店
- 中国語学研究会編(1969;1979)『中国語学新辞典』, 東京: 光生館
- 辻野裕紀(2021)『形と形が出合うとき——現代韓国語の形態音韻論的研究——』, 福岡: 九州大学出版会
- デリダ, ジャック(2001)『たった一つの, 私のものではない言葉——他者の単一言語使用』, 守中高明訳, 東京: 岩波書店 ★最近, 文庫にもなっている
- 藤堂明保・相原茂(1985)『新訂 中国語概論』, 東京: 大修館書店
- 時枝誠記(1941;1979)『国語学原論』, 東京: 岩波書店 ★言語過程説は注目に値するが, その基本的なところの限界については野間秀樹『言語存在論』第1章などを参照
- 互盛央(2009)『フェルディナン・ド・ソシュール——〈言語学〉の孤独, 「一般言語学」の夢』, 東京: 作品社
- 戸田浩暁(1974;1988,1978;1988)『文心雕龍 上下』, 新釈漢文大系 64, 65, 東京: 明治書院
- 角田太作(1991)『世界の言語と日本語』, 東京: くろしお出版
- 中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉(2008)『「訓読」論——東アジア漢文世界と日本語』, 東京: 勉誠出版
- 中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉(2010)『統「訓読」論——東アジア漢文世界の形成』, 東京: 勉誠出版
- 新田義弘・子安宣邦・丸山高司・村田純一・丸山圭三郎編(1993)『岩波講座 現代思想 4 言語論的転回』, 東京: 岩波書店
- 野間秀樹(2001)「オノマトペと音象徴」『月刊言語』第30巻第9号, 8月号, 大修館書店 ★オノマトペ論
- 野間秀樹(2007a)「試論:ことばを学ぶことの根拠はどこに在るのか」, 野間秀樹編著(2007)所収 ★本講演の原点
- 野間秀樹(2007b)「音韻論からの接近」, 野間秀樹編著(2007)所収
- 野間秀樹(2007c)「形態音韻論からの接近」, 野間秀樹編著(2007)所収 ★形態音韻論の入門書はほとんどないので, 例えば本稿で
- 野間秀樹(2008a)「言語存在論試考序説 I——言語はいかに在るか——」野間秀樹編著(2008)所収★
- 野間秀樹(2008b)「言語存在論試考序説 II——言語を考えるために——」野間秀樹編著(2008)所収★

- 野間秀樹(2008c)「音と意味の間に」『國文學』2008年10月号, 學燈社 ★オノマトペ論. 次々に出るオノマトペ論の書物, 言語の原理論を踏まえないオノマトペ論は空しい
- 野間秀樹(2009a)「引用論小考」『朝鮮半島のことばと社会』, 油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会編, 東京: 明石書店
- 野間秀樹(2009b)「現代朝鮮語研究の新たな視座: 〈言語はいかに在るか〉という問いから——言語研究と言語教育のために——」, 『朝鮮学報』, 第212輯, 天理: 朝鮮学会
- 野間秀樹(2012a)「文法論の基礎概念」, 野間秀樹編著(2012)所収 ★韓国語+日本語の文法論の基礎
- 野間秀樹(2012b)「表現様相論からの接近」, 野間秀樹編著(2012)所収
- 野間秀樹(2014b)『韓国語をいかに学ぶか——日本語話者のために』, 東京: 平凡社 ★韓国語=朝鮮語を学び始める前に本書を. 学習書については本書の文献案内を参照
- 野間秀樹(2014c)「対照言語学的視座と言語教育」, 『中日韓朝語言文化比較研究. 第3輯, 日本語言文化研究』, 李东哲, 安勇花 主编, 延吉: 延边大学出版社
- 野間秀樹(2018)「言語の対照研究, その原理論へ向けて——言語存在論を問う」, 『社会言語科学』第21巻第1号, 社会言語科学会. note で閲覧可能 https://note.com/noma_h/n/ne4909188d1c6
- 野間秀樹(2018)『言語存在論』東京: 東京大学出版会 ★言語を問う原理論. 言語の存在様式と表現様式, 「〇〇語」とは, ことばが意味となる/ならない, 言語場論, 発話論・文論, 主述論・省略論, 真偽論・時制論・命名論, 言語動態論など, 言語をめぐる原理論の諸問題を扱う. ハングルから一般言語学・言語論を照らすことも行っている. 言語への根幹のパラダイムを見直す営み. 野間秀樹の著作では最も知沸き, 肉躍るものだと思う.
- 「はじめに」と目次(東京大学出版会) <https://www.utp.or.jp/files/textsample/9784130860543.pdf>
- 野間秀樹(2021b)『言語この希望に満ちたもの——TAVnet 時代を生きる』, 北海道大学出版会 ★私たちが生きる時代の言語を問う, 野間秀樹(2018)を具体化した, この時代の実践論. 野間秀樹の著作の中では最も刺さると思われる. 翻訳論やエスペラント論など野間秀樹(2018)で扱っていないことがらも「ツイッターで見る『言語 この希望に満ちたもの』」https://note.com/noma_h/n/n7f51fe465a95
- 「はじめに」と目次 <https://note.com/api/v2/attachments/download/e0400b8daf03f953b7c00a41aa172c3b>
- ハイデッガー(1996)『言葉への途上 ハイデッガー全集 第12巻』, 亀山健吉, ヘルムート・グロス訳, 東京: 創文社
- バンベニスト, エミール(1983)『一般言語学の諸問題』河村正夫他・岸本通夫・木下光一他訳, 東京: みすず書房
- 橋本進吉(1946)『國語概論』, 東京: 岩波書店 ★同書 p.13に見える「要するに, 日本語は, 日本民族が自己の言語として昔から用ゐて来た一切の言語をさしていふのである.」などと, 「日本民族」の言語が「日本語」だというような没論理的な言説が, 今日に至るまで広くまわって通っていたのであった. 野間秀樹『言語存在論』p.8参照. 橋本文法は日本の学校文法の根幹を成す文法論である
- 廣松渉(1979)『もの・こと・ことば』, 東京: 勁草書房 ★圧倒的多くの言語論と同様, 「同一の語が, 同一の意味をもつ」とする〈意味同一性〉の陥穽に陥っている典型. 〈意味同一性〉の幻想については野間秀樹『言語存在論』第8章参照
- 福永光司(1971)『中国文明選 第十四巻 芸術論集』, 東京: 朝日出版社 ★漢語圏の美学として言語論的な観点からも非常に面白い.
- 藤本幸夫編(2014)『日韓漢文訓読研究』, 東京: 勉誠出版 ★20世紀末からの日本語と韓国語の漢文訓読研究の1つの到達点
- ブルームフィールド, L.(1962;1982)『言語』, 三宅鴻・日野資純訳, 東京: 大修館書店 ★アメリカ構造主義言語学の典型
- バフチン, ミハイル(1980)『ミハイル・バフチン著作集 4 言語と文化の記号論』, 北岡誠司訳, 東京: 新時代社
- バフチン, ミハイル(2002)『バフチン言語論入門』, 桑野隆・小林潔編訳, 東京: せりか書房
- バンベニスト, エミール(1983)『一般言語学の諸問題』河村正夫他・岸本通夫・木下光一他訳, 東京: みすず書房
- フンボルト, ヴィルヘルム・V.(1948;1998)『言語と人間』, 岡田隆平訳, 東京: ゆまに書房 (東京: 創元社1948を再版)
- 丸山圭三郎編, 富盛伸夫・前田英樹・丸山圭三郎他著(1985)『ソシュール小事典』, 東京: 大修館書店
- マテジウス, ヴィレーム(1981)『機能言語学 〈一般言語学に基づく現代英語の機能的分析〉』, 飯島周訳, 東京: 桐原書店
- ヤーコプソン, ローマン(1973)『一般言語学』川本茂雄他訳, 東京: みすず書房
- 山口巖(1995)『類型学序説——ロシア・ソヴェト言語研究の貢献』, 京都: 京都大学出版会
- 山口巖(1999)『パロールの復権: ロシア・フォルマリズムからプラーグ学派へ』, 東京: ゆまに書房
- 山本真弓編著, 臼井裕之・木村護郎クリストフ(2004)『言語的近代を超えて——〈多言語状況〉を生きるために』, 東京: 明石書店 ★本講演の時代的背景を押さえることができる
- 吉田和彦(1996)『言葉を復元する——比較言語学の世界』, 東京: 三省堂
- 吉本隆明(2001)『定本 言語にとって美とはなにか I II』東京: 角川書店 ★20世紀後半, 日本の思想を駆け抜けた吉本隆明でさえ, 言語の原理論についてはかくも脆弱であった
- 和久希(2017)『六朝言語思想史研究』, 東京: 汲古書院 ★六朝時代の諸家の言語思想を論じた専門書だが, 異様に面白い
- Heidegger, Martin (1959) *Unterwegs zur Sprache*. Gesamtausgabe. Bd. 12. Frankfurt am Main: V. Klostermann ★小品 “Die Sprache” (言語) S.9に見える “Der Mensch spricht. Wir sprechen im Wachen und im Traum.” (人間は話す.我々は現(6つ)に話し, 夢に話す.)などという言説は, 形になったことばと, 形になっていないことばとをア prioriに同一視する典型. 音や光の形として実際に実現した言語と, 〈言語未生以前〉とは区別されねばならない. 少なくとも学術的な姿勢をもって言語を対象に見据えんとするのなら, 現にあつて語られることばと, 夢にあつて語られる「ことば」は, 区別せねばならない. 夢にいくら愛を囁こうが, 夢にいくら無実を叫ぼうが, 恋人も判事も, それらを(ことば)としては決して受け入れないであろう. また, 同書でハイデッガーがシュテファン・ゲオルゲの詩 “Das Wort” (語(ことば))を引用して述べている条に触れ, 〈名づけ〉について述べている野間秀樹『言語存在論』(2018: 326-327)参照. 言語の原理論から照らし返すと, 大哲学者たちの論考もしばしば危ない
- Карцевский, Сергей И.(1925) *Русский язык: Грамматика*, Прага: Издательство Пламя ★鮮烈なる導入を見せてくれる文法論. 現在, こうした発想は受け継がれていない
- Noma, Hideki (2005a) When Words Form Sentences; Linguistic Field Theory: From Morphology through Morpho-Syntax to Supra-Morpho-Syntax. *Corpus-Based Approaches to Sentence Structures*. Usage-Based Linguistic Informatics 2. Takagaki, et al. (eds.), Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins
- Noma, Hideki (2005b) Korean, *Encyclopedia of Linguistics, Volume 1*, (ed.) Philipp Strazny, New York: Fitzroy Dearborn; Routledge
- Saussure, Ferdinand de (1916;1972) *Cours de linguistique générale*, Paris: Payot
- Vachek, Josef (1973) *Written Language: General Problems and Problems of English*, The Hague & Paris: Mouton
- Vachek, Josef (1989) *Written Language Revisited*, Philip A. Luelsdorff (ed.), Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins
- William, Jones, Sir(1786) “The Third Anniversary Discourse, Delivered 2 February 1786 (On the Hindus)”. *Asiatick Researches* 1: 415-431. (1806).

<https://archive.org/stream/asiaticresearche01asia#page/414/mode/2up>
 “UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger” <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000187026>

●韓国・朝鮮文化

노마 히데키[野間秀樹] (2024) “K-POP 원론” 연립서가 ★野間秀樹(2022)『K-POP 原論』の韓国語訳ではなく、韓国語による書き下ろし。総 712 頁。カラー図版 16 頁。ハンギョレ新聞など韓国の言論で熱く語られる、1 冊のアートとも言える存在感。QR コード 400 本超。巻末の分類 MV リストは圧巻の 843 本。日本語版は電子書籍があるが、本書の電子書籍はない。東京のチェックリヤ web 上のハザ (Haza) 書店で日本でも容易に入手可能。

教保文庫など韓国のネット書店で詳細な内容紹介や抜粋を見ることができる：

<https://product.kyobobook.co.kr/detail/S000214379140>

노마 히데키[野間秀樹] 엮음 (2014) “한국의 지(知)를 읽다”, 김경원 옮김, 서울: 위즈덤하우스 ★野間秀樹編(2014)の韓国語版

노마 히데키, 백영서 편[野間秀樹・白永瑞共編] (2023) “한국의 미를 읽다” 최재혁, 신승모 역. 연립서가 ★野間秀樹・白永瑞共編(2021), 美しい装丁の韓国語版

노마 히데키, 백영서 편[野間秀樹・白永瑞共編] (2025 近刊) “한국의 마음을 읽다” 독개비 ★野間秀樹・白永瑞共編(2025)의 韓国語版. 日韓同時刊行

斎藤真理子(2025)『韓国文学の中心にあるもの 増補新版』, 東京:イースト・プレス ★現代韓国文学のブームと言われる。1 冊入門書をあげるとすると、著者の思い溢れる本書か

野間秀樹(2022)『K-POP 原論』, 京都:ハザ

★本書は、〈お金と集計表から K-POP を見る本〉ではない。何かというと「日本があ」とか「韓国があ」などと振りかざす(隠れ国家主義イデオロギー)とも訣別し、言語学と美学から K-POP MV 作品の核心へと清く正しく美しく、これでもかとばかりに愉しむ、誰も語れなかった K-POP 論。そう、この批判は祈りに似る。〈K ぽ〉愛があちらこちらに炸裂する渾身の一冊。QR コード 150 本, 願望別分類 MV リスト 400 本。入門以前の方も、達人の方も。QR コードにより私たち皆が、瞬時に K アートの宇宙へと飛翔する読書=音楽体験。電子書籍もあり。

2008年 YouTube が韓国でも、時は TAVnet(タブネット)の時代へ。SNSD, SHINee, EXO からついにかの BTS へ, MAMAMOO, BLACKPINK が。さらには、見よ, Red Velvet, DREAMCATCHER, TWICE, SEVENTEEN, NCT 127, EVERGLOW, Stray Kids, (G)I-DLE, ATEEZ, ONEUS, ENHYPEN, ITZY, aespa, IVE, 2022年には NMIXX, Kep1er, LE SSERAFIM, NewJeans, Lapillus が… 〈こゑ〉(声)を聞け, 韓国語の〈ことば〉に耳を澄ませよ, 「ラップ」と「랩」[reP 레P]の違いを体感せよ, 声門閉鎖という見えない音符を聴け, 〈こゑ〉が〈うた〉になる瞬間に立ち会い, 〈音〉を〈光〉を堪能せよ。K-POP MV アート, それは「世界観」などではない——カントはそんなこと言っていない——, めくるめく(世界像)たちなのだ。千変万化, この〈世界像〉たちが奏で, 造り上げる K-POP の宇宙, K アートの〈いま・ここ〉を喜ばせよ, 哀惜せよ <https://www.amazon.co.jp/dp/4910751017/>

野間秀樹(2023)『図解でわかるハングルと韓国語』, 東京:平凡社 ★図解版『ハングルの誕生』+韓国語の超初歩入門。人文書+語学書。

音声ダウンロード。内容紹介 note https://note.com/noma_h/n/n4f00d836c688

野間秀樹編(2014)『韓国・朝鮮の知を読む』, 東京:クオン ★韓国語圏の知に係わる書物, 約400冊を日本と韓国の知識人140名が紹介

野間秀樹・白永瑞共編(2021)『韓国・朝鮮の美を読む』, 東京:クオン ★韓国語圏の美に係わる書物を日本と韓国の知識人86名が紹介

野間秀樹・白永瑞共編(2025, 3月近刊)『韓国・朝鮮の心を読む』, 東京:クオン ★韓国語圏の〈心〉に係わる書物を日本と韓国の知識人122名が描き出す, 心の万華鏡。「読む」三部作完結編日韓同時刊行 <https://chekccori-bookhouse.com/product/3/17751/>

李禹煥(1971)『出会いを求めて——新しい芸術のはじまりに』, 東京:田畑書店 ★1970年代, 日本の若き現代美術家たちが貪るように読んだ記念碑的な現代美術論

李禹煥(2016)『出会いを求めて——現代美術の始源』, 東京:みすず書房

●韓国語=朝鮮語の入門書・学習書

金珍娥・野間秀樹(2025, 3月近刊)『ユアと韓国語 上級』, 東京:くろしお出版 ★基礎を終えた人々が, 日本語と韓国語の対照言語学的な観点から中上級を学ぶ, 全く新しい高密度の独習書=教科書 <https://www.amazon.co.jp/dp/4801110061/>

金珍娥・野間秀樹・村田寛(2021)『はばたけ! 韓国語 ライト版 1』, 東京:朝日出版社

金珍娥・野間秀樹・村田寛(2022)『はばたけ! 韓国語 ライト版 2』, 東京:朝日出版社

金禮坤(2024)『定本 韓国語講座』京都:ハザ ★1960年, 在日の子弟へ向けて書かれた連載が現代に蘇る。奥田靖雄等の言語学研究会, 朝鮮民主主義人民共和国の画期的な『朝鮮語文法』の思考などを汲む, 今日の文法論とは著しく異なった, 驚くべき文法論。文法家はいかに語り, 人々はいかに学んだのか?

中島仁(2021)『これならわかる 韓国語文法: 入門から上級まで』, 東京: NHK 出版

野間秀樹(2007)『新・至福の朝鮮語』, 東京:朝日出版社

野間秀樹(2021c)『無敵の étude シリーズ1 史上最強の韓国語練習帖【超入門編】いきなり読める! 書ける! 話せる!!』, 東京:ナツメ社

★最も薄い本で最も遠くまで行ける入門書の一択。文字と発音を学ぶ最初の段階から話している!

<https://www.amazon.co.jp/dp/4816369449/>

野間秀樹・金珍娥(2012)『韓国語学習講座 凜 RIN 1入門』, 東京:大修館書店

野間秀樹・金珍娥・高権旭『はばたけ! 韓国語 2 初中級編』, 東京:朝日出版社 ★はばかんシリーズの最上級書

野間秀樹・高権旭(2022)『無敵の étude シリーズ 史上最強の韓国語練習帖【初級編】作文トレーニングで文法と会話をマスター!!』, 東京:ナツメ社 ★野間秀樹(2021c)の続編。いずれも音源は QR コード方式

<https://www.amazon.co.jp/dp/4816372180/>

野間秀樹・村田寛・金珍娥(2007;2017)『Campus Corean はばたけ! 韓国語』, 東京:朝日出版社

*網羅的ではありません。野間秀樹(2018)などの参考文献をどうぞ。またしばしば〈推し〉的な紹介文, ご容赦を!

●講師ホームページと twitter, note, 公開フェイスブック・ページ -----

pdf でリンクで跳べます。それ以外では「野間秀樹」で検索するのが, 早いと思われます。情報は twitter が最も早く出ます

<http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/>
<https://www.facebook.com/study.korean.noma>
https://note.com/noma_h/
<https://x.com/nsem17657228>

選書企画★言語この希望に満ちた本たち：

『言語 この希望に満ちたもの』（北海道大学出版会）刊行記念 野間秀樹選書フェア 紀伊國屋書店 札幌本店

https://note.com/noma_h/n/n36df8ca4e32d（自著，他著それぞれの，コメントつき選書リスト）

私たちは生まれ落ちたときから，ことばの奔流の中に生きていて，その中でしばしば息もできずにいます。でもことばは希望に満ちたもの。ことばを問い，ことばを考え，ことばを慈しむ書物たちと共にするひとときを。合言葉は 花ことば 夢ことば 生きることば，言語 あゝ この希望に満ちたもの。

野間秀樹ホームページ（更新遅し）：

<http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/>

野間秀樹 note 記事のリスト ホーム：

https://note.com/noma_h

野間秀樹 X twitter（最も早い）：

<https://twitter.com/nsem17657228>

amazon **野間秀樹の著作：**

https://www.amazon.co.jp/s?k=%E9%87%8E%E9%96%93%E7%A7%80%E6%A8%B9&i=stripbooks&mk_ja_JP=%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8A&ref=nb_sb_noss

野間秀樹（2018）『言語存在論』（東京大学出版会）まえがき

<http://www.utp.or.jp/files/textsample/9784130860543.pdf?fbclid=IwAR0NoFD5CJIEkb59umhTCY3Bv7Mw0WfCVtUFO2GNI2p8SSDcwlzS74lBnwpY>

野間秀樹(2021)『言語 この希望に満ちたもの』（北海道大学出版会）はじめに

https://note.com/noma_h/n/n85f031db5b8b

NHK テレビハングル講座 2005－2006 年挿入歌 〈Swinging ハングル〉 など：

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomahideki/nhksongs.htm>

韓国大使館 〈チナセム tv〉 目次：

http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/jstv_index.html

『韓国語をいかに学ぶか』平凡社：

http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/ci_debut_2014_06.html

野間秀樹(2018)「言語の対照研究，その原理論へ向けて一言語存在論を問うー」

社会言語学会の学会誌『社会言語科学』第 21 巻第 1 号(2018)の pp.35-51

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jajls/21/1/21_35/pdf-char/ja

「国際人工語」エスペラントは本当に使えるのか？

https://note.com/noma_h/n/ncbf0035eaecf

応答せよ！2000 野間秀樹(2001)「韓国ポップスとことば」：『月刊しにか』大修館書店 2001 年 9 月

号 所収

https://note.com/noma_h/n/ne2ced81480f3

野間秀樹(2022)『K-POP 原論』(ハザ)はじめに

https://note.com/noma_h/n/n978a0c981117

Yahoo!ニュース← ENCOUNTER 『K-POP 原論』インタビュー記事まとめ 2023年8月13-16日:

<https://encount.press/archives/499816/>

<https://encount.press/archives/500229/>

<https://encount.press/archives/500538/>

K-POP, もう体験してしまった共感! 言語を学ぶことは, 誰にも止められない

https://note.com/noma_h/n/n472ff67a283f

ツイッターまとめ:『言語 この希望に満ちたもの』言語学 言語哲学 言語思想 SNS 疲れから ヘイトスピーチの構造まで

https://note.com/noma_h/n/n7f51fe465a95

野間秀樹(2021)『言語 この希望に満ちたもの』第3章 抜粋

私たちに見えている世界は、ことばという被膜に覆われている:大規模言語モデルの時代にこそ、言語への構えを

https://note.com/noma_h/n/nfd846d7c3d57

野間秀樹(2014)『韓国語をいかに学ぶか』(平凡社)まえがき+目次

https://note.com/noma_h/n/n934bb7ce93cf

野間秀樹(2021)『新版 ハングルの誕生』(平凡社)まえがき

<https://editor.note.com/notes/n7c0631d8ed23/edit/>

野間秀樹(2023)『図解でわかる ハングルと韓国語』(平凡社)内容公開

https://note.com/noma_h/n/n4f00d836c688

野間秀樹インタビュー記事 日本語訳 韓国の『チェ・ボシクの言論』サイト、2022年10月9日、〈ハングルの日〉「いかなる文字であれ、それを使う人には、最も貴い文字であり得る」

https://note.com/noma_h/n/na104c6072371

“한글은 ‘과학적 문자’ 그 이상…케이팝은 새로운 ‘우주 아트’ 창조 “
‘한글의 탄생’ 개정판 낸 노마 히데키 (한겨레新聞, 2022. 10. 19. 韓国語)

<https://www.hani.co.kr/arti/culture/book/1062900.html>

[이사람] “한글은 인터넷·영어 남용에도 잘 대응할 것”

한글날 ‘주시경 학술상’ 받은 노마 히데키 교수 (한겨레新聞, 2019. 10. 19. 韓国語)

<https://www.hani.co.kr/arti/culture/book/555038.html>

'日 언어학자' 노마 히데키 "K 팝, 다문화적·다원적인 조형으로서 'K 아트'"

(NEWSis) 16000字インタビュー記事 韓国語

https://www.newsis.com/view/NISX20241104_0002945063

韓国のハンギョレ新聞『K-POP 原論』韓国語版書評. 日本語訳

https://note.com/noma_h/n/n9d991acb15a1

早稲田大学エクステンションセンター 韓国語 中級 (継続) 2025 春 4 月から :

<https://www.wuext.waseda.jp/course/detail/64643/>

東京外語学院 韓国語 :

<https://www.tokyogaigogakuin.com/%E9%9F%93%E5%9B%BD%E8%AA%9E/>

チェッコリ 韓国書籍+クオンの刊行物 :

<https://www.chekccori.tokyo/>

ハザ書店 ハザ (Haza) の刊行物+野間秀樹などの著作 :

<https://haza-books.stores.jp/>

●野間 秀樹 (のま ひでき)

言語学者、美術家、東京外国語大学大学院教授、ソウル大学校韓国文化研究所特別研究員、国際教養大学客員教授、明治学院大学客員教授などを歴任。

大韓民国文化褒章、周時経学術賞、パピルス賞、アジア・太平洋賞大賞、日本と韓国・朝鮮双方の血を嗣ぐ。

美術家としては、リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、ブラッドフォード国際版画ビエンナーレ、プラハ、オストラヴァ、ワルシャワ、ポズナニ、ソウル、大邱、横浜、京都などで各種の美術展に出品、東京、札幌などで個展、また現代日本美術展佳作賞。

著書に『言語存在論』東京大学出版会、韓国語版は연립서가 (連立書架) より近刊、『言語 この希望に満ちたもの』北海道大学出版会、『新版 ハングルの誕生』平凡社、韓国語版は돌베개 (トルベゲ)、『図解でわかる ハングルと韓国語』『韓国語をいかに学ぶか』いずれも平凡社、『K-POP 原論』ハザ (Haza)、韓国語版は連立書架、『史上最強の韓国語練習帖 超入門編』ナツメ社、『新・至福の朝鮮語』朝日出版社、など。

『ユアと韓国語 上級』(金珍娥・野間秀樹著) が3月25日くろしお出版より刊行。

編著書に『韓国語教育論講座 1-4 巻』くろしお出版、『韓国・朝鮮の知を読む』クオン、韓国語版はウィズダムハウス、共編に『韓国・朝鮮の美を読む』クオン、韓国語版は連立書架、『韓国・朝鮮の心を読む』クオン、韓国語版は독개비 (トクケビ) 3月25日、日韓同時刊行、など。